令和８年度　小・中学校教育課程研究協議会に係る各部会の改善の重点

部会名　**小学校　特別の教科　道徳**

改善の重点
①　指導の意図（主題設定の理由）を明確にした中心発問を設定し、発問構成を考えること。 ②　評価については、道徳科の目標にある学習活動に基づき、期待する児童の発言や記述等から、具体的な姿を見取る方法を工夫すること。

１　設定理由

道徳科の学習を充実させるには、明確な教師の指導の意図（主題設定の理由）が大切になる。年間指導計画における主題構成の背景などを再確認するとともに、まず、ねらいとする道徳的価値を学習指導要領解説で理解する（価値観）→ねらいとする道徳的価値に関わるこれまでの指導や児童のよさや課題等を明らかにする（児童観）→児童の実態を踏まえ、教材のどの場面を中心に考え、話し合わせることが適切か吟味する（教材観）。このように主題設定の理由を明らかにした上で、まず中心発問を考え、次に中心発問を生かす前後の発問（基本発問）を考え、全体の流れを構想するという手順が、有効な場合が多い。また、発問構成を考える際には、道徳科の目標に示された以下のような学習となるよう、工夫することが求められる。

・「**道徳的価値を理解する**」とは、「道徳的価値のよさや大切さ」、「道徳的価値を実現することの難しさ」、「道徳的価値に関わる考え方の多様さ」という３つの側面から理解することである。道徳的価値の大切さのみを深めようとすると、分かりきったことを発言させたり、教師の思いを押しつけたりする授業になる場合が多い。
・**「自己を見つめる」**とは、児童が教材の登場人物の置かれた状況に対して、「もしも自分だったらどうか」と自分事として考えたり、これまでの自分の経験を想起したりしながら、考えている姿のことである。
・**「多面的・多角的に考える」**とは、物事を一面的に捉えるのではなく、様々な視点から理解することである。例えば、思いやりには、「手を差し伸べる思いやり」もあれば、「見守る思いやり」もある。　等

道徳科の評価は各教科と違い、個人内評価となる。道徳性の育成につながるような児童の学習状況を見取っていく。道徳科で目指す学習状況は、目標に示された学習を行っている児童の姿となる。例えば、以下のような児童の姿（発言や記述等）を見取り、評価資料を蓄積していく。

・道徳的価値の大切さだけでなく、難しさ、多様さという様々な側面から考えている姿。
・複数の道徳的価値の対立が生じる場面を、多面的・多角的に考えている姿。
・授業での道徳的価値について現在の自分自身を振り返り、自らの行動や考えを見直す姿。等

２　研究を進めるに当たって

（１）実践に当たっては、以下の点に留意すること。

・年間指導計画における主題構成の背景を再確認するとともに、ねらいや指導内容についての教師の捉え方、児童のこれまでの学習状況や教師の願い、教材の特質やその活用方法を明確にすること。
・中心発問に対する児童の反応が３～４つ程度予想できるものを設定すること。複数の反応が予想される発問は、多面的に考えたり、話し合ったりする活動が期待できる。
・ねらいとする道徳的価値について、児童が、大切さ、難しさ、多様さという様々な側面から考えているか、発言や記述等から見取ること。また、評価資料を蓄積し、児童の道徳性に係る成長の様子を記録すること。

（２）参考とすべき資料

①「『道徳科』評価と授業構想の在り方」（令和７年４月）大分県道徳教育指導資料
②「『考え、議論する』道徳科授業へ」（令和４年２月）大分県教育庁チャンネル